

# シグマ委員会組織検討特別小委員会

## 第1回会合 議事録

日時 昭和51年8月24日(火) 9時～13時

場所 日本原子力研究所東海研究所原子核データ室(研2棟304号室)

出席者 久武(東工大), 中嶋(法政大), 飯島(俊)(NAIG), 大竹(動燃)  
立花(原電), 五十嵐, 更田(原研)

欠席者 木村(京大), 原田(原研)

配布資料 委員会専門部会ワーキンググループ会合開催状況

(まえおき) この特別小委員会は、昭和51年度第1回シグマ委員会(6月1日)において、組織検討の原案を今年中に作成すべく発足が決ったものであり、メンバーは大学関係3名、民間関係3名、原研3名という構成で上記の如くである。

この第1回会合においては議論が煮詰まっておらず以下の大部分は、討議にあがった事項を大小混淆で並列的に記録したものである。

### 議 事

- 1) 次の項目が討議のきっかけとして、あらかじめあげられた。
  - (a) 委員会の長期的展望
  - (b) 本委員会の在り方・構成・専門部会との関係
  - (c) 核データセンターの運営委員会
  - (d) 非中性子核データ
  - (e) ワーキンググループ(以下WG)の数
  - (f) 旅費の予算が苦しいこと
- 2) 歴史的検討
  - 専門部会方式の発足
  - WGの発足の仕方の変遷(本委員会の主導)
  - WGの分化……WG全体をまとめる意味での専門部会の形骸化
  - 委託の導入

3) WG

- 長期的なもの、短期的なもの、needs oriented、function oriented、など。
- やり方によってはメーカーから若い人が出る安定度が悪くなる可能性がある。
- WGの統廃合  
いずれにしても各WGにそれぞれ明確なlifeを定めることについては意見の一致をみた。

4) 予算面

委託予算の方向・変動、センターの経常的費用の定着化、などについての配慮。

5) 成果面

研究論文の形では成果は出ているが、BNL-325のような出版物といった、より形のあるoutputが色々考えられる。

6) 組織面

- 長期的に続くためにはflexibilityが重要。
- 人選のルール。closeだとの批判への答。新鮮さへの考慮。
- 他の委員会の方式も参考にすること。
- 地方支部の可能性。
- 数年に1回、定期的に監査の特別小委員会を持つ。
- 学会でinformal meetingを持つなど、より広い関係者との連絡を考えること。